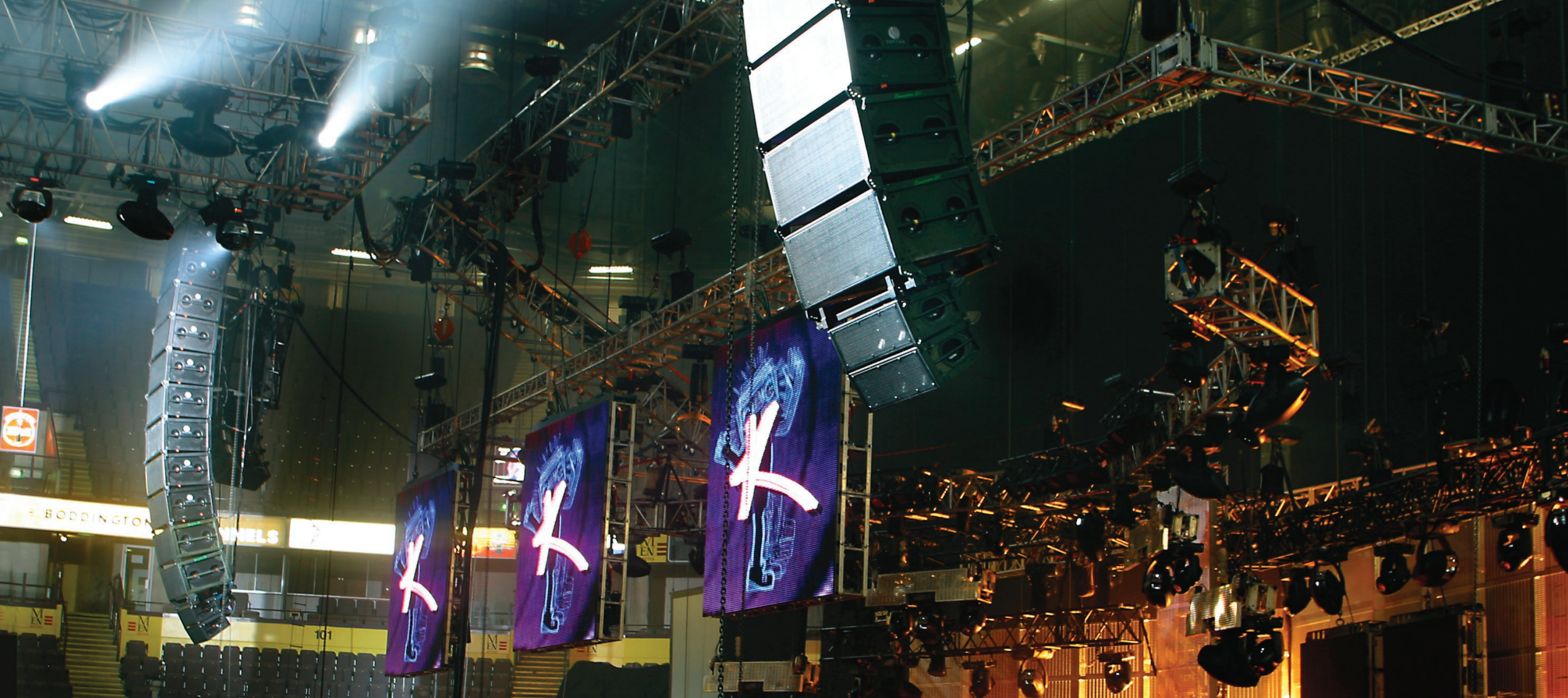


M SERIES



M3D Line Array (above) and M2D Curvilinear Array (below) on Kylie Minogue's "Fever" tour.

Mシリーズ スピーカシステム

Meyer SoundのMシリーズスピーカは、ハイファイ再生を目指す垂直アレイタイプのスピーカ群です。古典的なリニアアレイシステムの原理をさらに進化させ、指向角を含めた構築したラインアレイの能力を最大限引き出します。すべてのMシリーズスピーカは、パワーアンプ内蔵でQuickFly吊金具を装備し、MeyerSoundの他のスピーカとも一緒に用いることができます。RMS（スピーカ監視システム）を標準装備し、すべてのスピーカにオプションで屋外使用のための防滴仕様が用意されています。

M3Dは、大規模な会場のためのハイパワーなロングスローシステムです。このスピーカは、MeyerSoundの特許であるBroadbandQ技術を用いて、比類のない正確さでフルバンドの指向角度の制御ができる、巨大なパワーを持つシステムです。M3D-sub指向性コントロールサブウーファーと一緒に用いることで、サブウーファーと一緒に水平にアレイすることができ、低域の指向性を維持しつつ30Hzまで再生帯域を伸ばすことができます。

M2Dカービリニアアレイスピーカは、垂直指向角の広がりの問題になるような中規模会場において威力を発揮します。Meyer Soundによって1980年代当初に創始された台形のキャビネットによって創られる水平方向のカービリニアアレイ配列は、その後ずっと業界における標準形状となっています。Mシリーズは、この概念を垂直アレイに拡張し、垂直方向の指向性をコントロールします。高域においてBroadbandQ技術を使うことにより、従来のラインアレイよりはるかに一定の指向角を持ったカービリニアアレイを組み立てることが可能となりました。M2D-Subサブウーファーと一緒に用いることにより低域のパワーを増強しつつ35Hzまで再生帯域を伸ばすことができます。

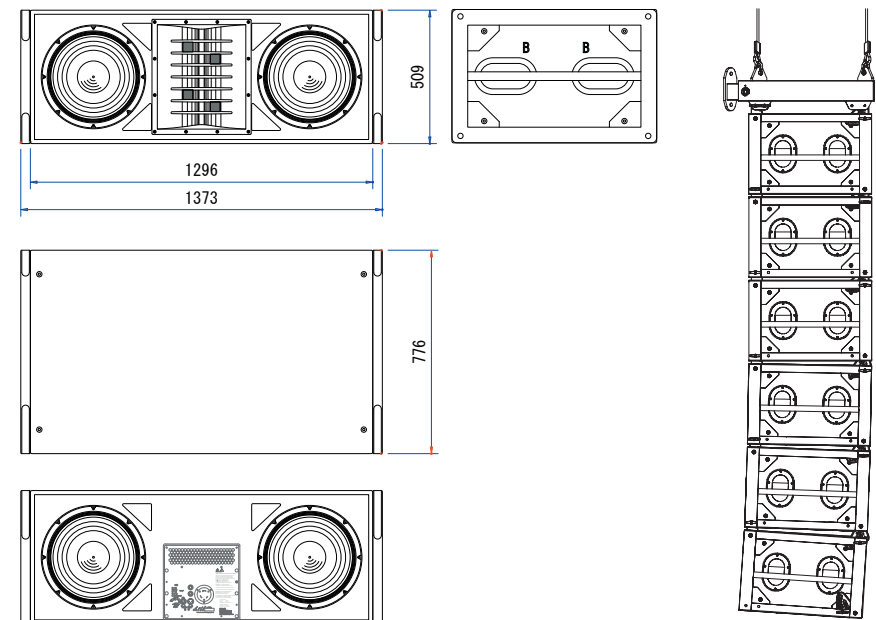
M1Dウルトラコンパクトカービリニアアレイスピーカは、さらに小規模な会場での高品位でコンパクトなシステムサイズが要求される場合にラインアレイ技術を適用できるようにしたものです。M1Dは、極めて小型で非常に扱いやすく、驚くべきパワーと明瞭度をもたらします。

M3D LINE ARRAY



M3D LINE ARRAY WITH BROADBANDQ

再生周波数帯域: 35Hz-16Hz
最大ピーク SPL: 145 dB @ 1 meter
指向角度: 水平 90° (垂直指向角度は、アレイする本数と開角度により決まります)
ドライバー構成: 低域: 15インチコーンドライバー4
高域: ダイアフラム径4インチコンプレッションドライバー x 2+REM
4500 Watts (1125 Watts/Channel [4 Channels])
パワーアンプ: 85 - 134 VAC; 165 - 264 VAC; 50-60 Hz
AC電源: XLR (A-3) electronically balanced
NEMA L6-20, IEC 309 or VEAM



寸法 1373mm(W) x 509mm(H) x 776mm(D)
重量 189kg

《垂直に吊り上げた時の姿図》
M3D および M3D-sub 合わせて 16 台まで吊り下げ可能。
各キャビネット間の開角度は 0° から 5° で 0.5° 単位で可変。
(2° から 5° は、1° 単位)

MeyerSoundのM3Dは、最新のBroadbandQ技術を初めて適用して創りあげた唯一のラインアレイシステムです。BroadbandQ技術とは、Meyer独自の新しい高域マニフォールドシステムと数々の賞を得た低域指向性コントロール技術を結合させ、35Hzから18kHzの帯域の水平垂直両方向の指向性を精密にコントロールするものです。この技術により、従来のラインアレイよりはるかに優れた特性を示します。

高域特性の改善のため、M3DはREM（リボンエミュレーションマニフォールド）を採用しました。これは、2つのMeyer製のコンプレッションドライバー（口径1.5インチ、ダイアフラム径4インチ）と定指向性ホーンから成っています。REMがドライバーからの出力を制御し、3インチの経路を経てホーンのスロートに到達するようになっており、これにより劇的に歪を減少させることができました。この独自のホーン形状が、ひとつの大きなリボンドライバーのような特性を示しかつはるかに大きなパワーを持つ位相の揃った波面を作り出します。垂直指向角は、10°（±5°）に限定され、相互干渉は最小で、歪も極端に低い状態を生みだします。

重要なミッド帯域を滑らかな特性にするため、M3Dは複雑なクロスオーバー回路を組み込んでいます。

低域は、前面に取り付けられた後面開放、磁性流体入りの2つの15インチドライバーがパワフルな位相の揃った低音を生みだします。これらの新しく開発された15インチドライバーは、軽量のネオジウムマグネットで作られており、1200AESワット*まで扱うことができます。

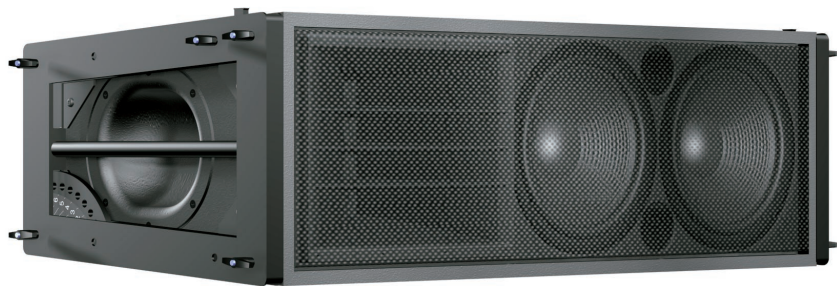
ミッド帯域では、そのうちの1つのみが動作するようになっています。この巧妙な技術により、2つのドライバーを用いたことによるミッド帯域のうち高域寄りの帯域で起こりうるドライバー間の干渉を防ぎ、位相特性および周波数特性を最適に保ちます。さらにミッドおよび低域では、背面に2つの15インチドライバーが取り付けられており、これらを複雑な位相回路で

前面の2つのドライバーと別にドライブすることで、前面のドライバーから発生する波面と干渉するようになっています。その結果、低域を35Hzまで指向性を持たせることができ、キャビネット背面では、前面に比べ音圧を25dB下げることができました。

隣り合わせのキャビネット間を0°〜5°開き最大16台（M3DとM3D-subをあわせた台数）までをアレイすることができ、水平指向角度を90°に保ったままアレイする本数と開角度により垂直指向角度を変えられます。

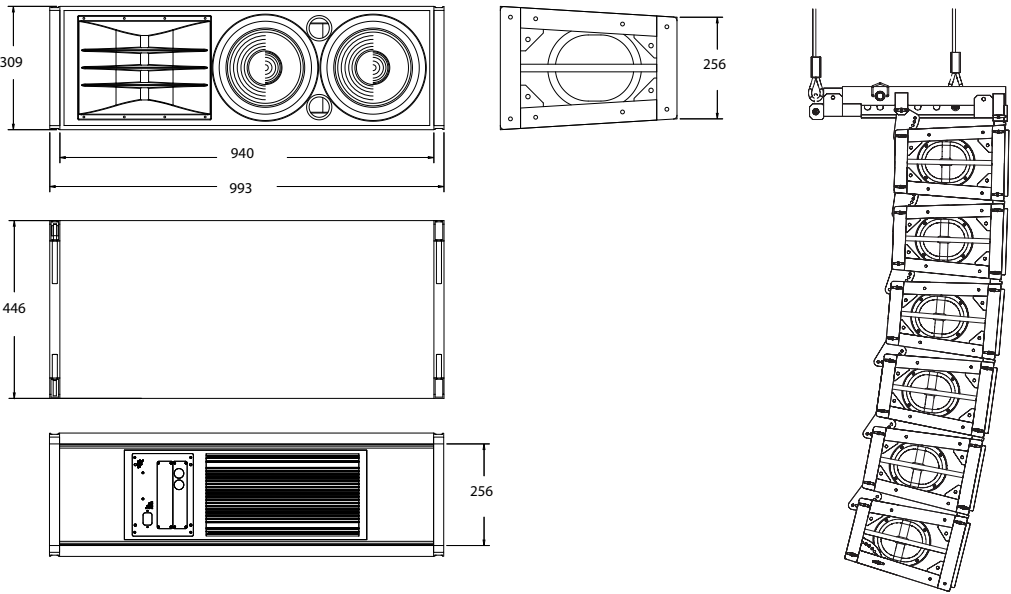
* Loudspeaker driven with a band-limited pink noise signal (125Hz to 8 kHz) with 6 dB peak-to-average ratio for a period of 2 hours.

M2D COMPACT CURVILINEAR ARRAY



M2D COMPACT CURVILINEAR ARRAY

再生周波数帯域: 60Hz-16Hz
最大ピークSPL: 136 dB @ 1 meter
指向角度: 水平90° (垂直指向角度は、アレイする本数と開角度により決まります)
ドライバー構成: 低域: 10インチコーンドライバー2
高域: ダイアフラム径4インチコンプレッションドライバー
パワーアンプ: 700 Watts (350 Watts/Channel [2 Channels])
AC電源: 80-264VAC;50 or 60Hz



寸法 993mm(W) x 309mm(H) x 446mm(D)
重量 52.5kg

《垂直に吊り上げた時の姿図》
M2D を 12 台まで吊り下げ可能。(M2D-sub を一緒に用いる場合は、M2D 12 台に見合う重量まで吊り下げ可能)
各キャビネット間の開角度は 0° から 7° で 1° 単位で可変。

M2D は、コンパクトなカービリニアア（曲がった）配列用につくられたもので、中規模会場においてきちんとした垂直指向パターンコントロールが必要な時に有効なスピーカです。

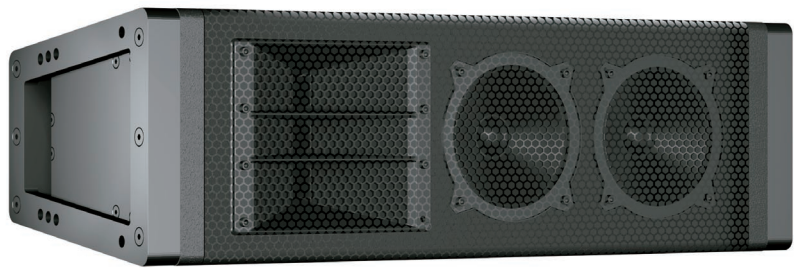
最大 12 台までを縦にカービリニアア配列するように設計されており、必要に応じて隣接スピーカ軸を 0° ～ 7° 開けます。このシステムは、従来からの MeyerSound の Self-Powered スピーカと完全に互換性があるために、システム構築が容易になります。

M2D は、MeyerSound の特許である REM（Ribon Emulation Manifold）を使用しており、これは口径 1.5 インチ（ダイアフラム径 4 インチ）の MS2010L コンプレッションドライバーと、新しい 90° の水平方向指向性ホーンを組合せることにより成り立っています（アレイの垂直方向の指向角度は、アレイにしたスピーカの本数と開角度によります）。

REM は、コンプレッションドライバーの出力をコントロールし、3 インチの経路を経てホーンスロートに到達するようになり、これにより歪を劇的に減少できます。

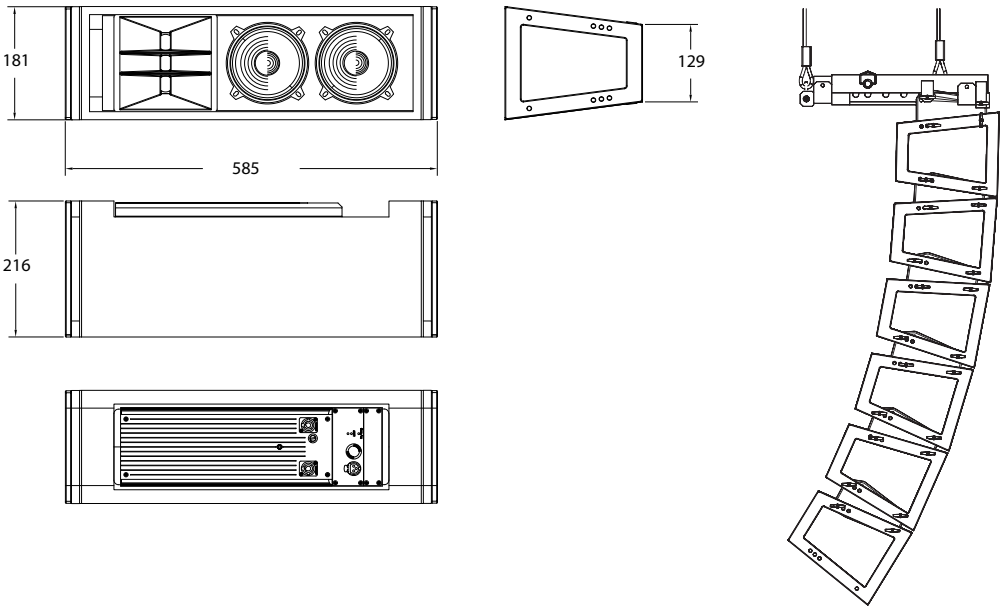
M2D の Mid-Low は、新しく造られた軽いネオジウムマグネットを使用した 2 つの 10 インチのコーンドライバーで構成され、コンパクトな台形のバスレフエンクロージャーにマウントされています。重要なミッドレンジの特性を滑らかにするために、M3D に使用したのと同じような精巧なクロスオーバーを組み込んでいます。それは、最も低い周波数域では、2 つのドライバーが結合してパワフルな低域をつくり出し、ミッド帯域では 2 つのドライバーのうちのひとつにだけクロスさせています。この巧妙な技術により、位相特性および周波数特性を最適に保ちながら、コーンドライバーが受け持つ帯域の高い周波数帯で発生するドライバー間の干渉を最小にしています。

M1D ULTRA-COMPACT CURVILINEAR ARRAY



M1D ULTRA-COMPACT CURVILINEAR ARRAY

再生周波数帯域: 60Hz-16Hz
最大ピークSPL: 123 dB @ 1 meter
指向角度: 水平100° (垂直指向角度は、アレイする本数と開角度により決まります)
ドライバー構成: 低域: 5インチコーンドライバーx2
高域: ドームドライバーx3
パワーアンプ: 350W (バイアンプ構成)
AC電源: 90-105VAC;50 or 60Hz



寸法 585mm(W) x 184mm(H) x 216mm(D)
重量 19kg

《垂直に吊り上げた時の姿図》
M1Dを12台まで吊り下げ可能。
各キャビネット間の開角度は0° から10° で1° 単位で可変。

新開発のM1Dは、Meyer Soundで最も小型のカービリニアアレイ用Self-Poweredスピーカで、小規模の会場で有効に使用することができます。特にアンダーバルコニーフィルシステムのように、タイトな垂直指向角度が必要な場合には有効です。極めてコンパクトなキャビネットであるため組まれたアレイは目立たないシステムではありますが、その形状からは想像もできない品質を達成しています。

最大12台までを縦にカービリニアアレイするように設計されており、必要に応じて隣接スピーカ軸を0°~10°開けます。水平方向の指向角を100°に保ったまま、吊り下げるスピーカの数とスピーカ軸開角度を変えることにより垂直方向の指向角を変えられるようにしました。

2つの5インチコーンドライバーと、100°の水平方向指向性ホーンに取り付けた3つのハイパワーネオジウムドームドライバー（新開発）から構成されており、非常にコンパクトな台形パステフ構造のエンクロージャーに組み込まれています。3つのドームドライバーは小さなラインアレイのような動作をし、M1Dウェーブガイドにより広めの水平指向角とタイトな垂直指向角を持ちます。

重要なミッドレンジの特性を滑らかにするために、M2DおよびM3Dに使用したのと同じような精巧なクロスオーバーを組み込んでいます。それは、最も低い周波数帯域では、2つのドライバーが結合してパワフルな低域をつくり出し、ミッド帯域では2つのドライバーのうちのひとつにだけクロスさせています。この巧妙な技術により、位相特性および周波数特性を最適に保ちながら、コーンドライバーが受け持つ帯域の高周波数帯で発生するドライバー間の干渉を最小にしています。

M1Dは、QuickFly金具を標準装備しており、スチールとアルミでつくられた吊り用フレームにクイックリリースピンで専用のCamLinkが結合されています。巧妙に配置されたマウンティングホールとCamLinkにより、M1Dのキャビネット間の開き角度を素早く簡単に変えられます。

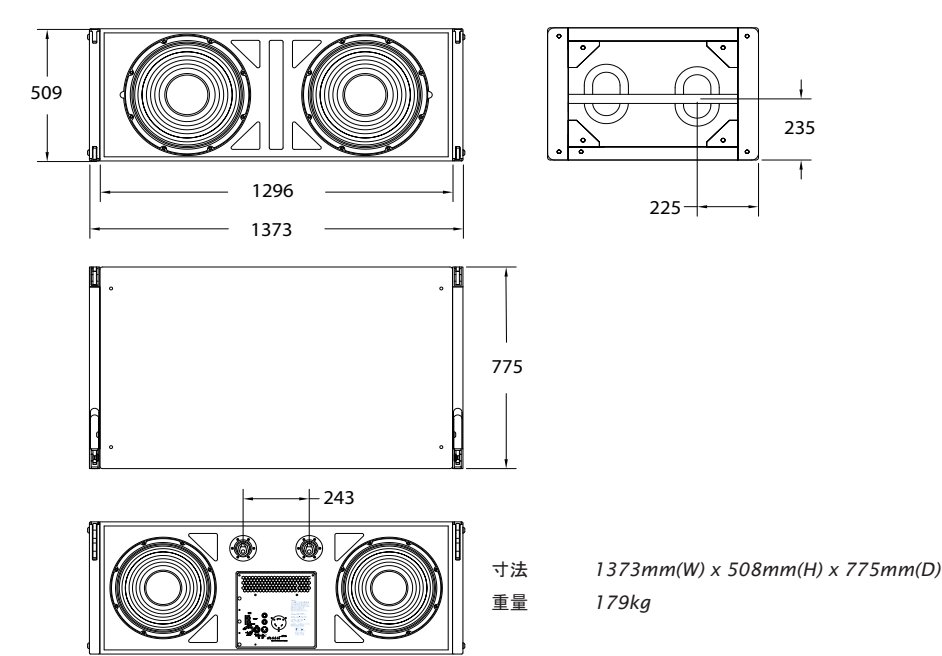
M1Dは、MOSFET出力段をもつバイアンプ構成で、周波数特性および位相補正をするコントロール回路内蔵のSelf-Poweredスピーカです。AC電源は、日本仕様は90~105V、50/60Hzです。内蔵されているピークリミッターとRMSリミッターにより、ドライバーの破損/オーバーヒートを防ぎます。M1DはM2D/M3Dと同様に、Meyer Sound社のRMS (Remote Monitoring System) 監視システムに対応しており、RMSインターフェースカードが標準装備です。

M SERIES SUBWOOFERS



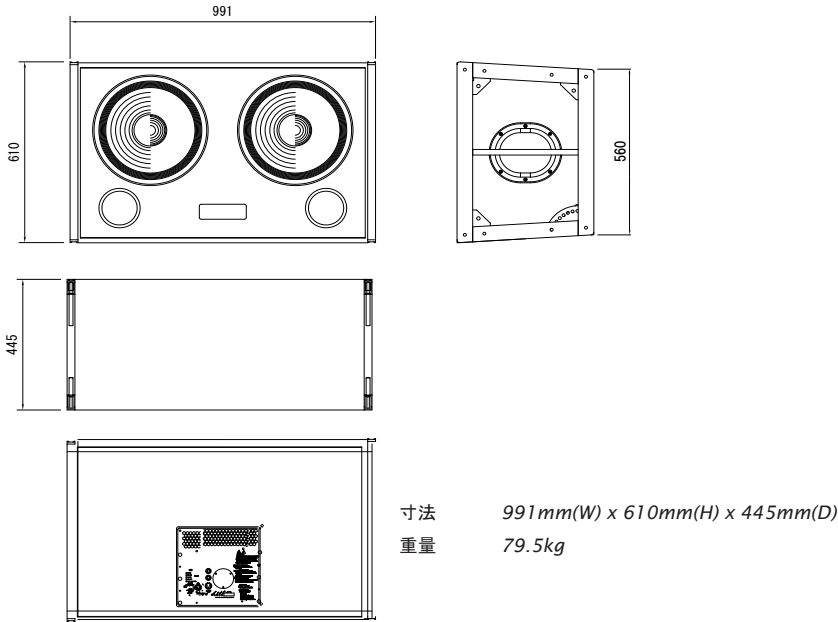
再生周波数帯域: 28Hz-100Hz
最大ピークSPL: 140 dB @ 1 meter
指向角度: 単一指向性
ドライバー構成: 前面: 18インチコーンドライバー2
後面: 18インチコーンドライバー2
パワーアンプ: 4500 Watts (1125 Watts/Channel [4 Channels])
AC電源: 85-134VAC
165-264VAC;50 or 60Hz

M3D-SUB DIRECTIONAL SUBWOOFER



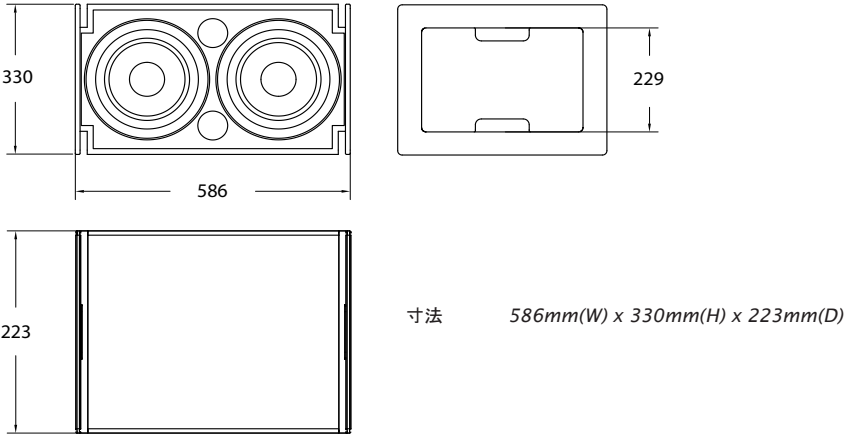
再生周波数帯域: 28Hz-160Hz
最大ピークSPL: 139 dB @ 1 meter
指向角度: 水平360° (垂直指向角度は、アレイする本数と開角度により決まります)
ドライバー構成: 前面: 15インチコーンドライバー2
パワーアンプ: 2250Watts (1125 Watts/Channel [2 Channels])
AC電源: 80-264VAC;50 or 60Hz

M2D-SUB COMPACT SUBWOOFER



再生周波数帯域: 35Hz-150Hz
最大ピークSPL: 130 dB @ 1 meter
指向角度: 水平360° (垂直指向角度は、アレイする本数と開角度により決まります)
ドライバー構成: 前面: 10インチコーンドライバー2
パワーアンプ: 700Watts (350 Watts/Channel [2 Channels])
AC電源: 80-260VAC;50 or 60Hz

MID-SUB ULTRA-COMPACT SUBWOOFER



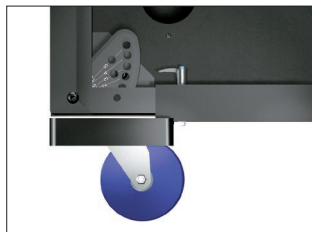
10 * Loudspeaker driven with a band-limited pink noise signal (125Hz to 8 kHz) with 6 dB peak-to-average ratio for a period of 2 hours.

TRANSPORT & PACKING

TRANSIT COVER

M3Dを輸送中保護するためのカバー

DETACHABLE CASTER RAILS



M3DあるいはM3D-subに取り付けて移動し易くするための取り外し可能なキャスターレール。4台スタックした状態でも可動。



M2D/M2D-SUB ROAD CASE

このロードケースは、M2Dを縦に2段スタックした状態あるいはM2D-subを1台運ぶためのものです。

サイズは、1181(W) x 978(H) x 584(D)です。MG-2DおよびM1D、MG-1D用にもロードケースを用意しております。



Mシリーズのスピーカは、ロードツアーを念頭に設計されています。20年以上にわたるロードツアーの経験から、効率的にトラックに積み込み会場での素早いセッティングが可能になるよう様々な工夫がこらされています。

M3DおよびM3D-subは、ヨーロッパおよびUSAのトラックに積み込むのに理想的なサイズになっています。従来使用されているキャスターボードに換わって、オプションのキャスターレールを取り付けることにより4段重ねのM3Dをスムーズに運ぶことができます。ベルクロテープで開閉できる、耐摩耗ナイロン生地で作られた丈夫なスピーカカバーを使用することにより、輸送中のこすれや雨濡れからスピーカを守ります。

M2Dにはオプションのロードケースが用意されており、M2DをQuickFly金具で2ユニットを連結したままあるいはM2D-subを1ユニット単体で輸送可能です。M2Dキャビネット背面を3°開いた状態にQuickFly金具で連結した状態にして輸送することで、現場でのセッティングを簡単かつスピーディーに行うことができます。

M1DとM1D-subにも、オプションのロードケースが用意されています。M1D用のケースは内部が3区画に分かれており、M1D3台をくくった状態で連結した2スタックを入れる2区画、および2つのMTG-1Dを入れるため内部に仕切りがある1区画（この区画は、多目的に使用できます）となっています。M1D-sub用のロードケースは、1台を輸送するためのものでM1D用のケースと同じサイズです。

MG-2D、MG-1D、MTG-1Dの各グリッド用のロードケースも用意されています。

頑丈な全てのロードケースはアルミニウムフレームで補強されており、ハンドルおよびキャスター付、トラックに効率良く積み込めるように、天板にキャスター受けがありケースを重ねることができます。内部は、発泡率の低い硬めのフォームで形成されており、輸送中キャビネットを安全に保持します。

ユーザーが独自でケースを作る際には、リクエストがあれば必要な図面および制作上ガイドラインを提供します。

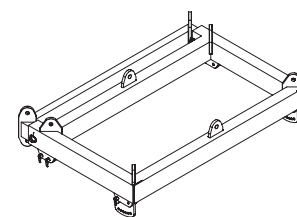
QUICKFLY RIGGING

MTG-3D: TOP GRID



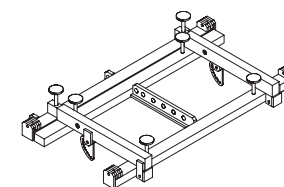
MTG-3D トップグリッドは、様々な吊り形状に対応します。

MTG-3D



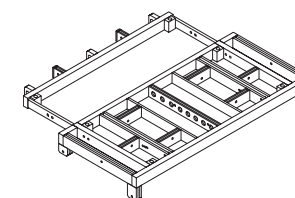
M3D・M3D-subをあわせて16台まで吊り下げることができるトップグリッドMTG-3D。
MTF-3D（図には示されていません）は、M3Dアレイの下に Concert Series スピーカーをダウンフィルあるいはフロントフィルとして吊り下げるためのグリッドです。

MG-2D



最大12台までのM2D（あるいはそれに見合う重量のM2D・M2D-subの合計台数まで）を吊り下げることができるトップグリッドMG-2D。
またM2D・M2D-subをグランドスタックする際にも使用できます。さらに、M3Dアレイの下にM2Dアレイを吊り下げるときの連結金具としても利用できます。

MG-1D



最大12台までのM1D（あるいは、それに見合う重量のM1D・M1D-subの合計台数）を吊り下げることができるトップグリッドMG-1D。M1D・M1D-subをグランドスタックする際にも使用できます。さらに、M2Dアレイの下にM1Dアレイを連結する際、およびM2Dアレイの下にUPA-2Pを3台あるいはDF-4を2台吊り下げる際の連結金具としても使用されます。

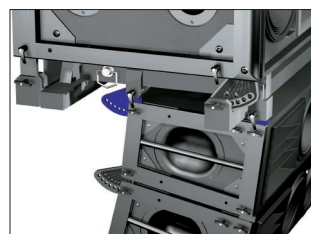
MG-2D: MULTIPURPOSE GRID



MG-2Dのエクステンションアームはマルチポイント吊りを可能にしたりアレイ全体の傾きを可変します。



MG-2DはM2D・M2D-subのグランドスタックを容易にします。MG-1Dも、同様です。



M3D・M3D-sub メインアレイに対するダウンフィル・フロントフィルとしてM2D・M2D-subを使用する際、MG-2Dは連結金具としての役目をします。

MRF-3D REAR LINK

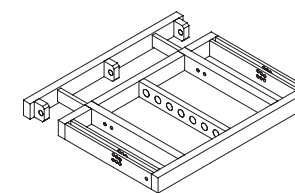


MRF-2Dフロントリンク（M2D/M2D-sub用）とMRF-3Dリアリンク（M3D/M3D-sub用）は、キャビネット間開角度を調整するための旋回軸となります。

MRF-2D FRONT LINK

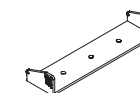


MTG-1D



最大12台までのM1D（あるいは、それに見合う重量のM1D・M1D-subの合計台数）を吊り下げることができるトップグリッドMTG-1D。

MUB-1D



MUB-1Dは、M1Dを2台まで保持あるいは吊り下げるための金具です。M1Dを様々な角度にチルトさせることができます。

MRF-3D CAMLINK



MRF-2D CAMLINK



MRF-1D CAMLINK



M3D/M3D-subカムリンク（前面装着）M2D/M2D-subカムリンク（背面装着）M1D/M1D-subカムリンク（フレーム中央装着）により、簡単にキャビネット間の開角度を変えられます。

全てのMシリーズスピーカは、MeyerSound製のQuickFly吊金具システムを搭載しています。このシステムは、使用中（吊上げたりグランドスタックしたとき）でも輸送中でも頑丈で信頼性が高く、連結も非常にシンプルです。

CamLinkとフロントリンク、リアリンクで吊時のキャビネットの連結と開角度を簡単に調整できます。CamLinkは、吊時もグランドスタック時も同じように使用できます。M1D CamLinkは、巧妙に配置されたマウンティングホールを使い開角度を1°～8°まで1°単位で可変できます。

全ての金具の連結は堅固であるため、連結アレイ全体の傾きを簡単に調整できます。キャビネット片側のリンクがきまれば、自動的にもう一方のリンクが決まります。スピーディーなセットアップおよびキャビネット間の切り離しを容易にするため、連結にはすべてクイックリリースピンを使用しています。

Mシリーズの連結金具・グリッドは専用に設計されたものであり、グリッドはスチール製で防錆処理を施してあります。全てのグリッドは、シングルポイント・マルチポイント・馬蹄形吊りなどあらゆる吊り形状に対応しております。MG-2DおよびMG-1Dグリッド後部にあるスライディングアームは、吊上げたアレイの傾きを固定したり、グランドスタック時アレイの安定度を高めます。



MSL-4s hanging below an M3D array provide seamless downfill coverage.

MEYER SOUND COMPATIBILITY

ラインアレイは、優れたロングスロー能力を持つため多くのSR現場においてははっきりとした利点を提供します。しかし、ラインアレイだけではシステム全体は完結することはできず、ほとんどの場合ニアフィールドのカバーおよびフィルシステムが必要となります。

Mシリーズスピーカは、他のMeyer Sound製Self-Poweredスピーカと完全に互換性が保たれるように設計されています。ごく僅かのEQとレベルを合わせるだけで、Meyer Sound製UltraSeriesおよびConcert Seriesスピーカは、Mシリーズのアレイとスムーズに混じりあいます。そのため様々な製品を組合せることにより、会場全席の拡声音を最適化できます。



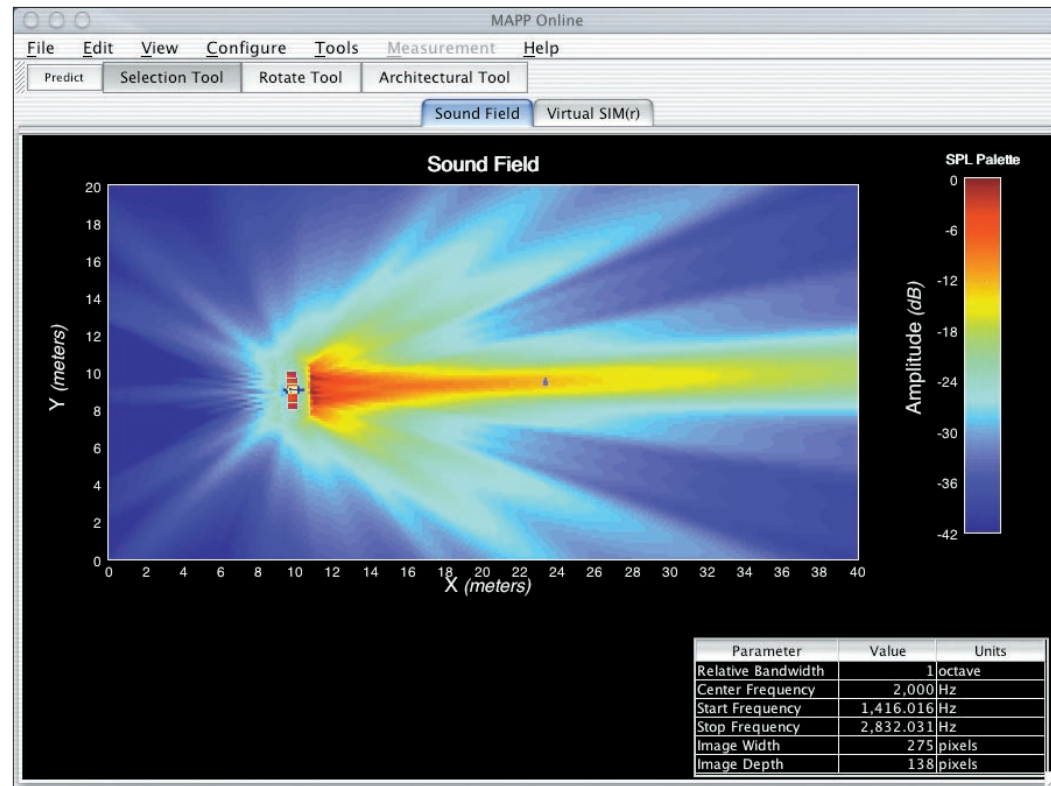
Simply distribute AC power and line-level signal — no amplifier racks to configure.

SELF-POWERED ADVANTAGE

Mシリーズスピーカは、キャビネット内にパワーアンプとコントロール回路が内蔵されています。そのためセットアップは非常に簡単で迅速です。アレイの各スピーカに対して、AC電源とラインレベル信号を渡して頂くだけです。コンサートツアーの音響チームは、広さの異なった会場に合わせてアレイを組むだけで、アンプラックを設置したり必要のない機材を持ち込まなくても済みます。固定設備では、太いスピーカケーブルを長く引っ張りまわす必要がなく、調整室内にアンプ・スピーカプロセッサなどのラック架が不要となります。

Mシリーズのパワーアンプは巨大なパワーを供給しますが、内蔵のMeyer Sound Intelligent ACTM 電源が自動的に動作電圧を設定するので世界中どこでも使用でき、さらにソフトスタートでインラッシュ電流を減らし、高圧（275Vまで）トランジェントを抑制します。TruePowerリミッティングが、構成ドライバーをオーバードライブから守りつつ継続的なパワーコンプレッションを1dB以内に保ちます。RMSTM監視システムに対応しており、Windowsベースのコンピュータで、全てのMシリーズのスピーカの状態をモニターできます。

MEYER SOUND MAPP ONLINE



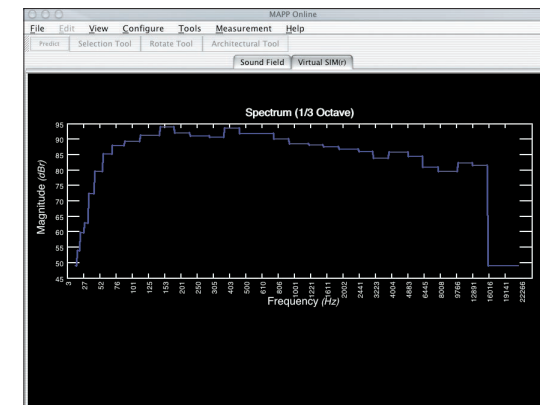
20年前Meyer SoundのSIMR II systemが登場した時、電気音響特性の測定方法に革命をもたらしたように、今我々は、プロオーディオの世界に真に革命的なツールであるMeyer Sound MAPP Online（特許申請中）を発表しました。

MAPP(Multipurpose Acoustical Prediction Program) Onlineは、強力な2次元空間でのJavaベースのシミュレーションソフトであり、アレイ状にしたMeyer Sound スピーカの指向パターン・周波数特性・インパルスレスポンス・最大SPLなどを詳細に予測できます。ローカルホストコンピュータ上で、Meyer Soundの様々な製品のアレイ構成を設定し、オプションで壁の材質・位置はもちろんのこと、気温・湿度・気圧などを設定します。シミュレーションをリクエストすると、インターネットを通じてMeyer Sound社にあるハイパワーなサーバーコンピュータに設定したデータが送られ、高解像度で複雑な（SPLと位相データを含む）ポラーデータをもとに、音響空間における精巧なシミュレーションを行います。その結果が、インターネットを通じてローカルコンピュータのディスプレイ上にカラー表示されます。

これらの図は、サウンドデザイナーにとってユニークな非常に精度の高い視覚化ツールであるMeyer Sound MAPP（Multipurpose Acoustical Prediction Program）Onlineで作成された音圧分布プロットです。

インターネットに接続されているパソコンを使って、デザイナーはMeyer Soundのスピーカをどれにするか選択し、配置して、スピーカの向きを決めます。オプションで、壁の位置・材質を決めます。この情報がインターネットを通じてカリフォルニア州バークレーにあるMeyer Sound本社のパワフルなサーバーに転送されます。精巧なアルゴリズムと、スピーカの指向特性に関連付けられる非常に精度の高い測定データを用いて、サーバーがスピーカの形成するであろう音場を予測し、音圧分布を視覚化するための色づけを行い、デザイナーのディスプレイ上にその結果を表示します。

音場プロットでは、音圧の強度をカラースペクトルで表示し、赤は音圧が高く、青は音圧が低いことを示します。これらのプロットをもとに、スピーカモデル・位置・向きなどのパラメータを調整し、拡声領域の音圧分布がなめらかで均一になるようにします。



さらにMAPP Onlineは、Meyer SoundのSIM system II FFTアナライザーの機能をエミュレートするバーチャルSIMと呼ばれる強力な機能を併せ持ちます。バーチャルSIMを用いる事で、アレイ配置したスピーカの周波数特性・位相特性・インパルスレスポンスなどを予測できます。内蔵のバーチャルEQで、実際システムが設置された際の、イコライザーに移行することのできるEQ設定を決定することができます。

MAPP Onlineは、システム設計をする上で必要となるシステムディレイ・イコライザー設定などを予測できる豊富なデータを提供します。正確で高解像度の予測データが提示されるため、設置現場での予想外な調整やカバーエリアの問題は発生しません。MAPP Onlineを用いる事により、確実な予測ができるためサウンドシステムの設置が容易になります。

MAPP Onlineは、周波数特性が予測できるため、特性をフラットにするためのバーチャルイコライザーが可能となります。バーチャルイコライザーは、システム特性を全体に渡っておおまかに補正するための3バンドイコライザーであるMeyer SoundのVX-1ステレオイコライザーをエミュレートします。リアルタイムにディスプレイ上で、実際にサウンドシステムを設置した際のVX-1にデータ移行できる最適な設定を見出すことができます。このことから、Meyer Soundシステムはテスト機器が仮に手元になくても、システム設置を即座に最適化することができます。

MAPP Onlineは、Windows、Linux、UnixおよびMac OS X（version 10.1.2 あるいはそれ以上）搭載のMacintoshコンピュータで利用可能です。また利用に際しては、Java Web Start version 1.0.1_02（Mac OS Xでは、標準装備）が必要となります。



Meyer Sound Laboratories Inc.
2832 San Pablo Avenue
Berkeley, California 94702

T: +1 510 486.1166
F: +1 510 486.8356

www.meyersound.com/mseries

REM, BroadbandQ, QuickFly, RMS, M3D and MAPP Online are trademarks of Meyer Sound. SIM is a registered trademark of Meyer Sound.
Patents pending. All specifications are subject to change without notice.

18 010.321.01 Rev B

(株)音響総合研究所



本社：〒400 - 0844
東京：〒180 - 0013
大阪：〒665 - 0845

山梨県甲府市中町5-1
東京都三鷹市下連雀2-14-45
兵庫県宝塚市栄町2-10-14新興産ビル2F

URL <http://www.atl.co.jp/>

TEL:055-241-9331 FAX:055-241-9338
TEL:0422-71-4511 FAX:0422-71-4512
TEL:0797-81-1167 FAX:0797-81-1168